

共同研究成果報告書

作成日 平成22年 5月21日

研究課題名	開化期戯作の社会史研究					
所属研究部局 ・職名	複合領域研究系 ・教授		ふりがな	たにかわ けいいち		
			研究代表者氏名	谷川 恵一		
研究形態	1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 ()					
研究の位置づけ	(1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 ()					
研究期間	平成16年度～平成21年度			6年計画の第6年次		
研究経費	年度	研究経費	経費内訳 (単位:円)			
			物品費	旅費	謝金等	その他
	平成16年度	2,358,087	2,218,336	114,660	0	25,091
	平成17年度	4,718,000	3,681,387	675,020	118,750	242,843
	平成18年度	1,269,476	34,650	720,595	113,050	401,181
	平成19年度	1,270,608	919,135	309,740	0	41,733
	平成20年度	2,567,155	1,355,745	952,700	257,450	1,260
	平成21年度	2,412,943	894,929	976,210	524,878	16,926
総計	14,596,269	9,104,182	3,748,925	1,014,128	729,034	

研究組織				
氏名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役割分担	エフォート (%)
(研究代表者)				
谷川 恵一	複合領域研究系・教授	日本近代文学	研究の全体的統括と運営	15
(研究分担者)				
青田 寿美	複合領域研究系・准教授	日本近代文学	各種データベースの監修・調整、及び調査の統括	15
北村 啓子	複合領域研究系・助教	情報科学	データベースの運用・管理	10
加藤 禎行	山口県立大学・国際文化学部・講師(当館客員准教授)	日本近世文学	明治期著作の調査研究	10
山下 則子	文学形成研究系・教授	日本近代文学	演劇関係著作の調査研究	10
青木 稔弥	神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授	日本近代文学	同時代文学との関連の研究	10
奥野 久美子	別府大学・文学部国際言語・文化学科・准教授	日本近代文学	明治期著作の調査研究	10
佐藤 至子	日本大学・文理学部・准教授	日本近代文学	文学技法及び図像の研究	10
甘露 純規	中京大学・文学部言語表現学科・准教授	日本近代文学	魯文著作の出版に関する研究	10
キャンベル、ロバート	東京大学・大学院総合文化研究科・教授	日本近世文学	戯作者の交遊圏の研究	10
佐々木 亨	徳島文理大学・文学部・教授	日本近世文学	新聞・雑誌類の関連情報の調査研究	10
佐藤 悟	実践女子大学・文学部・教授	日本近世文学	幕末期著作の研究	10
須田 千里	京都大学・大学院人間・環境学研究科・准教授	日本近代文学	魯文作品の受容の研究	10
高木 元	千葉大学・文学部・教授	日本近世文学	切付本に関する調査研究	10
高橋 昌彦	福岡大学・人文学部・准教授	日本近世文学	戯作の様式に関する書誌学的研究	10
木戸 雄一	大妻女子大学・文学部・准教授	日本近代文学	データベースの作成、及び資料調査	10
中丸 宣明	山梨大学・教育人間科学部・教授	日本近代文学	明治期著作の調査研究	10
山田 俊治	横浜市立大学・国際総合科学部・教授	日本近代漢文学	漢文学圏との交流の研究	10
山本 和明	相愛大学・人間発達学部・教授	日本近代文学	ジャーナリズムとの関連の分析	10

山本 良 (研究協力者)	埼玉大学・教育学部・准教授	日本近世文学	合巻の研究	10
福井 辰彦 (研究補助者)	立命館大学・文学部・講師	日本近代文学	戯作の社会的機能に関する研究	
富塚 昌輝	複合領域研究系・リサーチアシスタント	日本近代文学	データ整理補助	
合計 2 2 名				

【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に入れて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・【全体の研究成果】等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

幕末から明治前期という時代の転換期を歴大な著述とともにかけぬけていった仮名垣魯文ら戯作者の著述活動については、明治20年代以降における近代文学の成立とともに付された幫間まがいの戯作者＝前近代の遺物という否定的な評価に覆われ、従来ほとんどまともにとりあげられてこなかったと述べている。だが、日本近代文学が魯文らとともに葬ってしまったのは何だったのか、文学の近代を相対化する視座のひとつとして彼等の活動を再検討することは、文学の衰弱がいわれる現代の状況において、避けて通ることのできない課題となりつつある。本研究は、近年ようやく盛んとなってきた幕末から開化期にかけての時期を対象とした社会史などの諸研究をふまえ、魯文を中心とする戯作者たちの活動を実証的に再検討することで、幕末の草双紙から明治になって新たに登場する新聞などのメディアまで、多岐にわたるそれら著述の全貌を明らかにし、これまでの通り一遍の評価を再検討することを目指す。

現時点で所在が確認できる国内の仮名垣魯文のすべての著作について、デジタル技術を活用した書誌的調査を行い、その正確な目録と解題を作成する。得られた調査データに基づき、それぞれの著作の中から最も状態が良く、研究上の価値が認められる版と刷の全冊を高精細デジタルカメラで撮影して収集し、電子版仮名垣魯文著作集を作成する。これらを研究者が簡便に利用し得るような形で公開することにより、今後の魯文及び幕末明治期戯作研究のよって立つ確実な基礎を確立する。

上記の基礎研究と並行して、その成果を活用した仮名垣魯文の著述活動に関する多面的な解析を、日本文学研究はもとより、出版史・ジャーナリズム史などを始めとした幕末明治初期の文化史研究の成果を取り込みつつ行い、幕末から明治初期という変革期に展開された魯文の著述活動の全体像とその意義を解明する。

[全体の研究成果]

- ・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

現在知られている二百点を超える仮名垣魯文の著作について、所在が確認できないものを除き、ほぼすべてのものについて書誌的な調査にもとづく著作解題を作成した。ここには、諸本の比較検討による新たな知見が多く含まれている。また、このことと併行して、マイクロ及びデジタルによる撮影を含む魯文著作の収集に努め、これまでになかった規模の魯文コレクションを国文研に形成した。

上記の基礎的な研究を通じ、絶え間なく新たな著作を書き続けるかれらの営みが、次々と著作を読み捨て、過去に置き去りにしていくことが当たり前となる時代を先取りしたものであり、現在を特権的に焦点化する文学を直接準備したものであることを跡づけたことは、当該時期の戯作の位置づけに新たな展望をもたらすこととなるろう。

【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成□□年□月、□□書房、全□□□頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

【出版物】

佐々木亨『明治戯作の研究：草双紙を中心として』（早稲田大学出版部、2009年10月）
野崎左文著，青木稔弥・佐々木亨・山本和明校訂，私の見た明治文壇，平凡社東洋文庫，2007
仮名垣魯文の著作を網羅した『仮名垣魯文著作解題』（仮称）を平成23年度に出版すべく、現在編集作業中。引き続き、論文集を編集・刊行の予定。

【論文】

佐々木亨，「仮名読新聞」における明治九年の連載に対する再検討，国文学研究資料館紀要31，2005，pp. 295-317
佐々木亨，『高橋阿伝夜双譚』初編に於ける諸問題？書誌とジャンルを中心に一，国文学研究148，2006，pp. 33-44
佐々木亨，所謂「著作道書キ上ゲ」を巡って一魯文の転身一，日本文学52，2007，pp. 26-35
高木元，『英名八犬士』（一）一解題と翻刻一，人文研究34（千葉大学文学部），2005，pp. 95-157
高木元，鈍亭時代の魯文，社会文化科学研究（千葉大学大学院社会文化科学研究科）11，2005，pp. 1-23
高木元『英名八犬士』（二）一解題と翻刻一，人文研究（千葉大学文学部），2007，pp. 213-270
高木元，魯文の売文業，国文学研究資料館紀要文学研究篇34，2008，pp. 141-176
高木元，『英名八犬士』（三）一解題と翻刻一，人文研究37（千葉大学文学部），2008，pp. 19-79
山本和明，正本写『松の栄千代田の神徳』の周縁，国文学研究資料館紀要文学研究篇32，2006，pp. 185-208
山本和明，お仲狂乱一魯文『恋相場花夜嵐』考，国文学研究資料館紀要文学研究篇33，2007，pp. 79-104
山本和明，正本写『松栄千代田神徳』の一資料，相愛大学研究論集23，2007，pp. 67-86
山本和明，魯文作『歌舞菩薩露親玉』について？八代目団十郎追善本の周辺，『忍頂寺文庫・小野文庫の研究』2（2006年度大阪大学大学院文学研究科共同研究研究成果報告書），2007，pp. 9-16
山本和明，仮名垣魯文『松飾徳若譚』ノート，相愛大学研究論集24，2008，pp. 19-38
山田俊治，人情本の再生まで一明治初年の恋愛小説に関する一考察，日本文学56-10，2007，pp. 12-25
山田俊治，明治初年の「言」と「文」一言文一致論前史一，文学8-6，2007，pp. 84-90

[展示・シンポジウム]

(展示)

タイトル、会期(期間)、会場、入場者概数

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル

展示に付随した講演などは、頭に「*」を付して展示の項に註記しても構いません。

(展示)

秋季特別展「仮名垣魯文百覧会」、平成18年10月17日～11月2日(当初は13日間を、好評のため2日間臨時開室)、観覧者総計約1,000名

A4サイズ2段組48頁・総文字数にして72,663字という、大部の展示目録を作成した。本目録は、展示セクションの概要と展示資料の解題および国文学研究資料館蔵仮名垣魯文著作リストからなり、本プロジェクト研究成果の一端を示したものである。

(シンポジウム・講演会)

「江戸から明治へ—仮名垣魯文を中心として—」、平成18年10月20日、佐々木亨・山本和明・青木稔弥の三氏による講演を多数の参加者が熱心に聞き入り、有意義な質疑応答を交わした。

【研究会・資料調査】

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。(研究打合せは記入しないこと。)

【平成〇〇年度】

(研究会)

期日、会場、発表者(報告者)とタイトル

(資料調査)

期日、調査先

【平成16年度】

(研究会)

月例研究会を6月～3月に各1日開催した。うち、9月と1月は、研究大会としてそれぞれ2日間、3日間の日程で行った。内容は、研究集会のプログラムをご参照いただきたいが、プロジェクト始動の初年度ということもあり、魯文の全著作解題作成に向けての研究発表を主体としつつ、書誌解題のための指針の討議を併せて行った。これらを通して、凡例(整版本・活版本・活版式草双紙の三種)の骨組みを策定し、プロジェクトメンバーによる今年度分の解題をとりまとめた。

【平成17年度】

(研究会)

- 5月16日、第七回例会、奥野久美子 魯文閲『報知用文』について、神林尚子 『薄緑娘白波』 解題草案
- 6月15日、第八回例会、神林尚子 『薄緑娘白波』 改題草稿補遺—「鬼神のお松」関連資料など、山本和明 『松栄千代田神徳』 について、谷川恵一 洋装本解題について
- 7月17日～18日、第三回大会、小野さやか 『神社佛閣納札起原』 について、佐藤至子 『仮枕巽八景』 について、高木 元 『英名八犬士』 について、佐々木亨 和装活版本の凡例とそのモデルについて、福井辰彦 白門新柳記とその周辺、佐々木亨 『栗毛弥次馬』 について、佐藤 悟 『清談青砥刃味』 について、谷川恵一 洋装本解題について
- 9月12日、第九回例会、中丸宣明 「荒磯割烹鯉魚腸」、加藤禎行 「『欧洲小説／哲烈禍福譚』 について」、山本和明 「野崎左文写「稗史年代記」について」
- 10月21日、第十回例会、宮脇真理子 「『冬楓月夕栄』 について」
- 11月16日、第十一回例会、谷川恵一 「毒婦の商法」
- 1月7日～9日、第四回大会、加藤禎行 『酌子定妓芸者の心得』、高橋昌彦 『安政午秋頃痢流行記』、青木稔弥 『西洋道中膝栗毛』 (小林鉄次郎版)、山本和明 『恋相場花王夜嵐』、木戸雄一 『稻葉猴雪灯新話』、山本良 『鋸山玉石異訓』、土屋礼子 『西南鎮静録』、福井辰彦 『新潟花かがみ』、奥野久美子 『岩見重太郎實記』、小野さやか 『駄洒落早指南』、佐々木亨 『義経一代記図絵』、神林尚子 『薄緑娘白波』、谷川恵一 『血達磨一代記』

以上の研究会において、魯文の全著作解題作成に向けての研究発表を主体としつつ、書誌解題のための指針の討議を併せて行った。これらを通して、凡例(活版本・活版式草双紙の二種)の骨組みを策定し、今年度分の解題をとりまとめた。

【平成18年度】

(研究会)

- 7月15日～17日、第五回研究大会、延広真治「伯円と魯文—横浜小僧殺し」、大橋崇行「浮世風呂端唄入混」、山本良「夢物語高野実伝」、山本和明「新屋文庫蔵『春色柳桜筋』をめぐって」、佐藤至子「仮名読八犬伝」、青木稔弥「滑稽道中膝車」、加藤禎行「西洋料理通」、木戸雄一「浮世機関西洋鑑」、青田寿美「両国八景 荏土久里戯」、奥野久美子「西國順禮 娘敵討」、佐々木亨「芬明開花 窮理外伝」、小林実「通俗 究理話」、福井辰彦「全盛玉菊譚」、谷川恵一「牛店雑談 安愚楽鍋」
- 1月6日～7日、第六回研究大会、青木稔弥「西洋道中膝栗毛(版下草稿)」、福井辰彦「報讐信田森」、木戸雄一「誠忠義臣銘々伝」、高木元「當世八犬伝」、佐藤至子「梅春霞引始」、安部亜由美「当写殿下茶屋駅」、松原真「仮名垣魯文閲『真薦苜信濃美談嘉助全伝』」、山本和明「魯文作『歌舞菩薩露親玉』に関する一考察」、小林実「横浜土産」、宮脇真理子「冬楓月夕栄」、青田寿美「於歳玉毬唄絵解」、加藤禎行「首書絵入／世界都路」、佐々木亨「蛸入道魚説教」、中丸宣明「安政見聞誌」、谷川恵一「横浜往来」

月例研究会については記載を略すが、各回1～2名の研究発表を行った。

【平成19年度】

(研究会)

- 5月11日、国文学研究資料館中会議室、第十九回例会、松原真「『童謡甲斐の胆擧』について」、佐々木亨「明治四～六年頃における魯文の交流圏の一端」

- 6月22日、国文学研究資料館中会議室、第二十回例会、高木元「雑書に見る魯文の序文」、佐々木亨「資料紹介 魯文校『石川五右衛門一代記』」、谷川恵一「『安愚楽鍋』について(承前)」、青田寿美「凡例(逐次刊行物用)」・「〈解題〉起廢病院医事雑誌」
- 7月14日～15日、総研大講義室、第七回大会、佐藤至子「『四家怪談』について」、青田寿美「魯文×膝栗毛物の商品力—「江之嶋詣栗毛後馬」をめぐって—」、青木稔弥「魯文の双六など」、佐々木亨「『鳥追阿松海上新話』の成立について」、福井辰彦「『甲越川中島軍記』について」、加藤禎行「『百足の歩』について」、小林実「『義経蝦夷軍記』について」、奥野久美子「『石川五右衛門一代記』について」、高木元「魯文の賣文業—晝譜・繪手本・端唄本・錦繪・引札—(承前)」、山本和明「『月の輪』刊行に関する一事情」、木戸雄一「『男伊達花川戸』のことども」、谷川恵一「『日蓮上人御一代記』のこと」
- 9月7日、国文学研究資料館 中会議室、第二十一回例会、高木元「魯文の自筆稿本」(『新編鎌倉見聞誌)」、谷川恵一・宮脇真理子「『福和内笑門新舗』について」
- 11月2日、国文学研究資料館 中会議室、第二十二回例会、谷川恵一「『絵新聞日本地』について」
- 1月12日～13日、総研大講義室、第八回大会、木戸雄一「『楠一代記』の書誌学的考察」、神林尚子「『花裘狐草紙』に関する一考察—書誌的事項を中心に」、佐藤至子「『雨夜鐘四谷雑談』の魯文嗣作部分について—京伝『安積沼』の利用を中心に—」、高木元「『星月夜吾妻源氏』の手法について」、佐々木亨「『胡瓜遣』成立における問題点」、小林実「どいつごとどいつ—『洋語読入倭度々逸』—」、青田寿美「聞書き・仮名垣魯文 曾孫池田脩氏述」、谷川恵一「浪花男団七黒兵衛」のことども」、中丸宣明「仮名かき新報解題ならびに『東京絵入新聞』掲載の魯文の文章について」、山本和明「魯文『成田山御利生記』諸本考」

【平成20年度】
(研究会)

- 7月19日～20日、国文学研究資料館第二会議室、谷川恵一：『将門一代記』について、木戸雄一：『楠公一代記』再考、佐藤至子：『弓張月春廼宵榮』における魯文担当箇所について、神林尚子：『神稻=笠松』について、宮脇真理子：『福和内笑門新舗』について(承前)、佐々木亨：『子宝習字草』における神奈垣魯文、20日、青田寿美：魯文×膝栗毛物の商品力(2)—「滑稽江戸栗毛」をめぐって—、福井辰彦：『平良門蝦蟇物語』について、山本和明：明治三年魯文存疑本考、高木元：魯文の艶本について、谷川恵一：奎星帖について
- 10月31日、国文学研究資料館第1会議室、仮名垣魯文研究会11月例会、中丸宣明「忠勇景清全伝」について
- 1月10日～11日、国文研第二会議室、谷川恵一『釈迦御一代記』、中丸宣明『教訓五常近道』、須田千里『高橋阿伝夜刃譚』、福井辰彦『名広沢辺萍』、佐藤至子『桜莊子後日文談』『増補双級巴』『加賀山曾我笠松』『当九字万成曾我』『仮名手本忠臣蔵』、11日、木戸雄一『佐野志賀蔵一代記』の書誌について、青田寿美『かちかち山』附・『滑稽江戸栗毛』補遺、神林尚子『おもくろだぬ記』、山本和明『成田山御利生記』追補ならびに『百猫画譜』に関する覚書、高木元

【平成21年度】
(研究会)

- 5月29日、国文研オリエンテーション室、加藤禎行「『現今支那事情』について」
- 6月26日、国文研第2会議室、谷川恵一「『頼光大江山入』について」
- 7月18日、国文研オリエンテーション室、加藤禎行「『現今支那事情』について」、福井辰彦「『傀儡太平記』について」、佐々木亨「『滑稽富士詣』について?滑稽本に占める位置を中心に」、神林尚子「『伊賀の仇討』をめぐって」、谷川恵一「『廓曾我仮家細軒』について」、高木元「疱瘡絵等、資料紹介」
- 7月19日、国文研オリエンテーション室、山本和明「魯文「花櫓根分大歌舞」について」、宮脇真理子「『遊戯菩提記』について」、青田寿美「『復讐曾我物語』について」、中丸宣明「『神稻黄金笠松』について」
- 12月17日、国文研第4会議室、加藤禎行「野崎魯文校合『大日本/万物歳時記』『皇朝/年中行事俗家通覧』について」
- 1月9日、国文研第2会議室、谷川恵一「万字堂と魯文—『浄瑠璃大全』をめぐって—」、奥野久美子「『箱根権現靈驗記』について」、神林尚子「『東紫哇文庫』について」、木戸雄一「『権八一代記』について」、加藤禎行「鈍亭魯文補綴「小栗一代記」について」、高木元「『美勇水滸伝』について」、青木稔弥「『成田道中膝栗毛』について」、福井辰彦

彦「『漢土二十四孝伝』について」

- 1月10日、国文研第2会議室、山本和明「野崎左文書写『仮名垣文集』に就いて」、青田寿美「新庄堂と魯文（承前）—「端唄独稽古」「実語教童子教余師」のことなど」、佐藤至子「『日光道中膝栗毛』について—ふたたび魯文と愚文—」、佐藤至子「『金毘羅利生伝記』について」、佐々木亨「『源平盛衰記』に見られる魯文の抄録態度」
- 3月5日、国文研第2会議室、総括および魯文解題のフォーマットについて

(資料調査)

- 9月12日、アド・ミュージアム東京
10月15日、アド・ミュージアム東京
10月23日、神戸松蔭女子学院大学図書館
2月8日-9日、群馬大学新田文庫